

## ～ 居合道演武会 ～

### ■居合道

敵が斬り掛かってきたとき 敵より速く刀を抜いて斬る武道です(後の先)

仮想の敵を想定して 抜刀→攻撃→納刀を一人で演じます

戦国時代末 出羽の国(山形)生まれの林崎甚助により創始されました

### ■抜刀道

真剣で巻藁、竹を斬る武道です

### ■日本刀から生まれた言葉

- ・反りが合わない→違う鞘に刀は収まらない
- ・元の鞘に収まる→中違いした者が仲直りする
- ・抜き打ち→居合の技→予告無しに行う
- ・目貫通り→柄に付ける豪華な金具のように華やかな大通り
- ・土壇場→罪人の処刑される土台→もう後が無い状況
- ・折り紙付き→刀の鑑定書→価値が確かなこと
- ・とんちんかん→刀鍛冶が刀を打つタイミングがずれて“とんちんかん”と音がする→間の抜けた言動
- ・相槌を打つ→刀鍛冶の師匠が槌を打ったらそれに合わせて弟子が槌を打つ→相手の話に調子を合わせる
- ・切羽詰まる→鑊(つば)を両側から挟む金具→身動き出来ない状況

### ■”無双直伝英信流“居合の型

- ・初伝(正座)  
前、左、後、八重垣(やえがき)、  
受流(うけながし)、介錯(かいしゃく)  
附込(つけこみ)、抜打(ぬきうち)
- ・中伝(立膝)  
浮雲(うきぐも)、嵐(おろし)